

# 壬生照玄高森町長の のマニフェストを 外部評価検証する

2021/10/16



マニフェストを読んで選挙に行こう。

◇評価者：早稲田大学マニフェスト研究所

中村 健

# マニフェストってなに？

「お願い」から「約束」  
のマニフェスト型選挙へ

## 「マニフェスト」とは

ラテン語を語源として「はっきり示す」という意味があります。

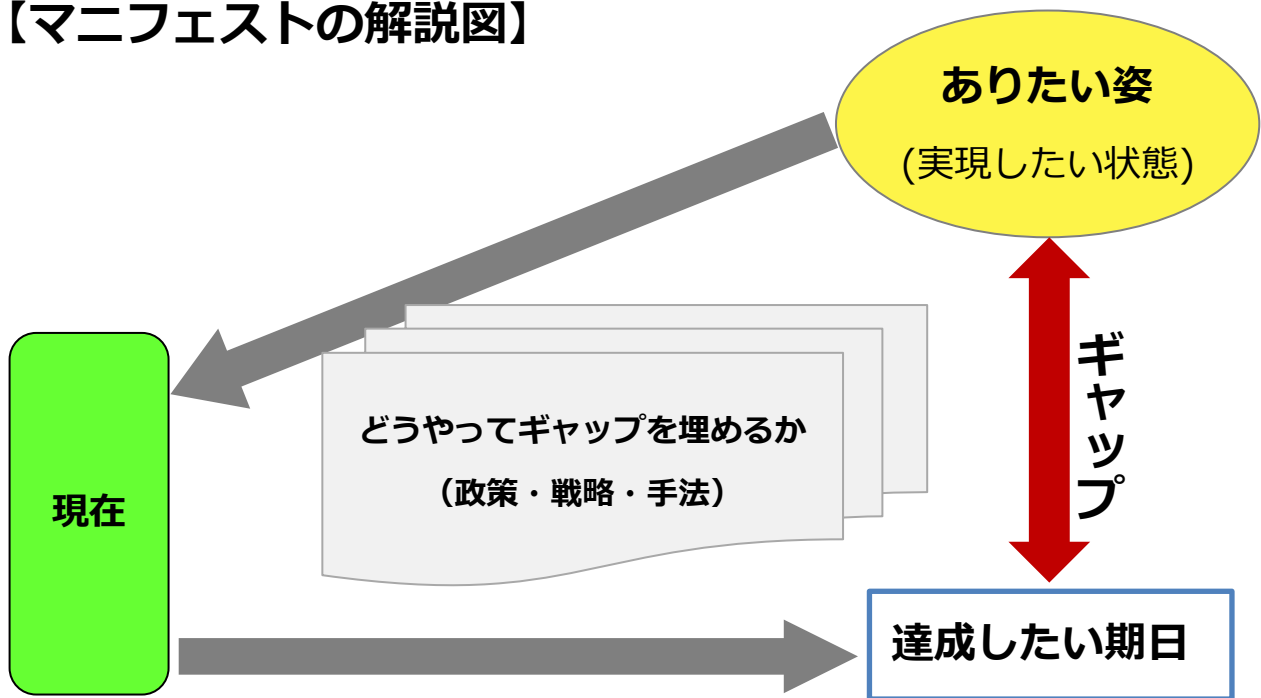
「なんのために・なにを・いつまでに・誰が・どの程度・どのようにして行うのか」等を具体的にはっきり示すため、選挙後も検証が可能なツール。



**北川正恭**

早稲田大学名誉教授  
マニフェスト研究所を  
2004年設立

## 【マニフェストの解説図】



# 2018年 高森町長選挙時のマニフェスト

## 地方創生時代を生き抜く力をみんなの手で… 高森町の今と未来のために！ ～町民の皆さんとの7つのお約束～

視る！ 聴く！ 応える！

「視る！」こと、「聴く！」ことは、まちづくりを行うのに一番大切なこと。現在高森町は、人口減少、少子化、高齢化に伴う地方創生や、様々な課題を抱えています。「町の現状はどのようになっているのか、どのように考えているのか」、それを知るには、現場に直接触れ、町民の声を聴くことが大切です。私は、これまでの行政目線ではなく、町民の皆さんと同じ目線に「高森町の未来」に応えるため、皆さんの対話の中からまちづくりの方向性を捉え、「高森町の今と未来のために」しあわせタウン PLAN を策定しました。

### ●PLAN1 地域に根差した、人材育成 ～地方創生は人づくり

- ① 未来を担う子どもたちが、地域を「考え」「好き♡」になるプロジェクト  
◇小学生には、地域の人材を活用した高森町ならではのコミュニティスクールを推進します。  
◇中学生には、地域のことを考え、課題解決に向かう生徒会活動を人的・金銭的支援を行います。  
◇高校生・短大生・大学生などには、「飯田下伊那100計画」「わかもの☆特命係」を推進し、まちづくりを知る活動やイベントを応援します。地域の就職支援として、農業・企業へのインターンシップ事業を研究します。

### ●PLAN2 自治と協働 みんなで動かす元気な街

- ① 町民活動を支援する1%システム  
継続できる自治組織に向け、町民が支える公共活動団体（地域、ボランティア、NPO など）の育成及び支援を目的に、町民住民税の1%を助成する制度を作ります。
- ② 「もういちど7歳の目で世界を」信州たかもり熱中小学校（平成30年4月開校）  
全国展開中の熱中小学校は、学びのテーマから事業展開までを自分たちで考え行動する社会人学校です。アグリ交流センターの跡地利用と併せ、大人も学び成長する事業を継続します。

### ●PLAN3 優しい子育てがつづく街

- ① 読書で「こころ」を育む！  
南北小学校全クラスに学級文庫及び蔵書を整備し、一人年100冊読むことを目標にします。
- ② 健康な「体」づくり  
特に朝食習慣に目を向け、保育園、小中学校で朝食習慣100%を目指します。
- ③ 女性活躍、働き方改革を研究  
出産や介護などが仕事のハンデにならないよう、地域事業者の働き方改革を検討します。
- ④ 保育園の統合、建替え、民営化の研究  
統合保育園、民営化への研究を行います。
- ⑤ グローバル人材の育成  
リニア新時代に向け、子育て支援センター、保育園で外国語に触れる機会を研究します。小中学校で充実した英語教育ができるよう、民間事業者と協力して体制を整えます。

4年前のマニフェスト  
持ってますか？  
あるいは、  
覚えていますか？



アタクシーなどへの移行を研究します。

して行います。

ます。

利用

るよう、企業誘致を進めます。

街への樹種の変更など計画的に行います。

周辺のパノラマ園

パークとしての修景デザインを進めます。

への売込みを行い、高森町を発信します。

広域連携で取り組みます

る広域連携

などの法人化（DMO）

- ③ リニア長野駅周辺への国際大規模複合アリーナ施設の誘致
- ④ 山吹駒場河原への「川の駅」、2027年長野国体を見据えたカヌー競技場の誘致
- ⑤ 国道153号の4車線化を要望

### ●PLAN7 見える行政経営

- ① 予算査定を公開します  
予算はどのように決まるのか、予算査定を町民の皆さんの傍聴により公開します。
- ② ICT環境を整備し行政効率を向上させます  
公共料金のコンビニ収納、役場文書などの電子化、役場事務所の改修などを進めます。
- ③ 皆さんのご意見をチェックします  
町民の皆さんとの直接対話を増やし、公約や事業の評価をおこないます。（PDCAを廻します。）

### 【壬生しょうげんプロフィール】

- 昭和45年1月10日生まれ（47歳）
- 大東文化大学文学部卒業
- H6年より高森町役場に勤務し税務課に配属  
全国初納税相談システムを街電算と共同開発
- H12年よりまちづくり研究室（総務課）  
IP電話システムを採用したCATV事業を担当
- H21年より教育委員会（H24年より事務局長）  
高森中学校改築事業、高森町いじめ防止条例制定
- H26年より経営企画課（室）長  
まちづくり基本条例制定  
第6次振興総合計画、地方創生総合戦略、  
土地利用計画、景観計画の策定
- 家族/妻・子ども（1女1男）
- 趣味/スポーツ鑑賞、バレーボール、ゴルフなど
- 座右の銘/忘己利他（伝教大師最澄）

# マニフェストの評価期間と評価の考え方

## 1、期間

今回は町長の任期期間が **3年8カ月**（2018年1月～2021年9月）となるため、その期間が評価対象。

## 2、評価の方針

- 壬生町長のマニフェストを実現するための事業は全部で 104 です。

この 104 事業を次の 6 段階で評価しました。

- 0・・・未着手（役場の中で一部の者しか知らない状態）
- 1・・・計画づくり・組織づくり（行動の前の準備段階）
- 2・・・協議中・検討中（予算が付いたり具体の動きがある）
- 3・・・3分の1程度着手済み（進行中）
- 4・・・3分の2程度着手済み（進行中）
- 5・・・達成（終了）

- この 5 段階をそれぞれ点数とし合計点を算出した。

※満点の場合は 104 項目×5 点 = 520 点 となる。

- 各事業で点数化したものの合計点を出し、520 点満点中の割合を算出して達成率とした。

- 年度ごとでの評価点の合計も出した。

- マニフェスト項目は 23 項目。これについても同様に 6 段階評価とした。

※満点の場合は 23 項目×5 点 = 115 点 となる。

- 7 分野ごとの達成状況も出した。

# マニフェストの評価

分野	項目	評価点	年度ごと事業ごとの評価点											
			2018(H30)			2019(R1)			2020(R3)			項目計		
PLAN1 人材育成	①地域人材教育	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	39	
	②熱中小学校	4	5			4				4			13	
	小計	8	17			19			16			52		
PLAN2 まちづくり	①1%システム	5	3			5				5			13	
	小計	5	3			5			5			13		
PLAN3 子育て	①読書	4	4			3				5			12	
	②「体」づくり	4	5			5				2			12	
	③女性活躍・働き方改革	5	5	4	4	4	5			4	5		31	
	④保育園施設	5	3			4	4			4	4		19	
	⑤グローバル人材	4	3	4		5				4			16	
	小計	22	32			30			28			90		
PLAN4 高齢者福祉	①公共交通	5	3	4	3	4	4			5	5		28	
	②介護施設	5	4			4							8	
	③健康長寿	4	4	4		4	4			4	3		23	
	小計	14	22			20			17			59		
PLAN5 リニア 新時代	①下市田産業用地	4	3	3		4				4	4		18	
	②美しい段丘	4	3	3		4	5	5		5	5		30	
	③パノラマ農園	4	3	3		4				4			14	
	④川の駅・国体	4	3	3	3	5	4	4		4			26	
	⑤タウンプロモーション	4	4	4		4	4	4		4			24	
	小計	20	35			47			30			112		
PLAN6 広域連携	①クラウドワークス	4	4			4				4			12	
	②DMO・観光	4	4			3				3			10	
	③アリーナ	4	3			4				3			10	
	④R153	4	3			3				3			9	
	小計	16	14			14			13			41		
PLAN7 行財政経営	①予算公開	5	5			5				5			15	
	②ICT環境	4	3			3				4			10	
	③PDCA	4	4			4	4			4			16	
	小計	13	12			16			13			41		
① 評価点合計		<b>98</b>	<b>135</b>			<b>151</b>			<b>122</b>			<b>408</b>		
実施割合 (%) (①/③)		<b>85.2</b>	<b>73.0</b>			<b>81.6</b>			<b>81.3</b>			<b>78.5</b>		
② 項目数・事業数		23	37			37			30			104		
③ 総評価点 (②×5点)		115	185			185			150			520		

# 達成率

**85%** (点)

**85点の点数は、早稲田大学の単位基準でも高判定となります。**

SA : 90点～    A : 80点～    B : 70点～    C : 60点～

まだ残り約3か月ありますので、最後のまとめをしっかりとお願い致します！

## 地域に根差した、人材育成 ～地方創生は人づくり～

### PLAN 1

将来この地域のために貢献したい、この地域に帰ってきたい、そんな思いを持った若者に向けた人材育成プログラムを展開します。また、まちの人が町政の及ばない部分を支えている公共的な活動を認めると共に、社会人学校による人材や団体の育成を積極的に行います。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目①：未来を担う子どもたちが、地域を「考え」「好き♡」になるプロジェクト</p> <p>◇現在小学校では、地域の人材活用における授業支援のほか、「ホタルの学習」「干し柿づくり体験」などを実施しています。さらに、地域の産業や伝統芸能、歴史などを地域の方から学ぶ高森独自のコミュニティスクールを、月1時限を目標に実施します。</p> <p>◇大人社会へ羽ばたこうとしている中学生が、自ら町のことや地域の課題、まちづくりを自主的に考えることが必要です。中学校生徒会に50万円を助成し、自分たちの目線でまちを良くするため事業実施をお願いします。</p> <p>◇高校生の地域づくり団体「飯田下伊那100計画」や飯田女子短期大学の「わかもの☆特命係」などが行う、ボランティア活動やイベントなどに対し、活動費の一部を助成します。また、空き家などを活用し、活動拠点施設の整備などを検討します。</p> <p>◇高校生、大学生を対象に、夏休みなどを利用した農業体験交流、企業体験交流などを行い、地域産業を知り就職などにつながる、インターシップ事業を研究します。</p>	4	2018 (H30)	◇小学校コミュニティスクールは、信州型で実施。主に、北小学校ではホタルの飼育、南小学校では市田柿の学習が主軸。そもそも信州型は地域の評価などを除いた簡易のコミュニティスクールのため、外から活動、人的支援やそれらを評価するシステムの構築が必要。学校サイドでは教科教育中心で、地域学習などへの時間を割くことに未だ抵抗があり、調整が課題。	4
			◇生徒会が自主的に活動するまでには到っていないが、みらい懇談会において新3年生に町での3プロジェクトの取組みなどを紹介したことで、新年度総合的学習で取扱うことが決定。また、自発的に中学でのいじめ防止の取組みを、他校にも広げたいとのことから、新年度北部地区5中学校でいじめを考える会を行なった。	4
			◇今年度町が任命した「わかもの☆特命係」は14名（県外5名、女子短12名）。独自開催の若者会議のほか、町のイベントや事業の協力を得ることができた。また、町のFacebook、Twitter、Instagramなどにも積極的に情報提供を行っていただき、これまで以上に活動に幅がでてきた。インターシップについては制度設計及び実施計画を検討。次年度実施予定。	4
		2019 (R01)	◇地域が学校運営にどう関わるのか…3校と社会教育係で課題を整理し、令和2年度に向け組織体制の強化や協力者の掘り起しなどの検討を行った。	3
			◇総合的な学習を利用し中学生15名が、町の若手プロジェクトに参加。実際にイベントに参加し来訪者のおもてなしを行ったほか、竹の伐採なども体験した。まるごと収穫祭では、参加した中学生全員から町民に向け成果発表を実施。そこで企画提案された竹林のライトアップも実施した。	4
			◇中学2年生を対象に、松川中学校と合同で、地元企業24社の参加のもと、地域の産業を知るための企業ガイダンス「仕事みらいフェア」を実施。	4
◇「わかもの☆特命係」は24名（県外11名、地域内13名）。東京などで行われる町のPRイベントなど、主体的に参加し運営してくれた。地域出身で関東圏在住の若者とまちづくり懇談会を実施し、参加者の呼びかけや内容の企画なども行った。	4			

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
		2020 (R02)	◇学校は2月末から5月中旬まで休校。授業時数が限られる中ではあったが、冬のみらい懇談会にむけ、6年生が高森の学習を実施。北小では修学旅行を湯ヶ洞宿泊、社会見学を町内巡りにするなど、町を知るきっかけが増える結果になった。卒業時には、「町を美しく」をテーマに「ゴミポイ捨て禁止」のポスターを制作、町内に掲示した。	4
			◇学校は2月末から5月中旬まで休校。中体連は中止。文化祭もオンライン。中3の生徒をこのまま卒業させてはいけないとの思いで、中2のみらい懇談会で提案のあった「プロモーションビデオ」を制作。中3全員参加で、オンライン授業で帰省していた大学生と町の若手職員、地域のボランティアの皆さまも加わり10月から制作を実施し、12月完成。YouTubeで公開した。	4
			◇県外の学生に5月連休前にお米とカレーを送付(154件)。観光農園支援も兼ね6月にサクランボとブルーベリーを送付(166件)。この活動をきっかけに「わかものlavo」を発足し、県外学生と町との交流を開始。オンライン授業で帰省した学生を役場でアルバイトとして雇用(マイナンバーカード事務に3名)。県の「元気づくり支援金」を活用し、VR動画の制作を実施し、YouTubeで公開した。	4
		3ヶ年計 (50点中)		39



取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目②：「もういちど7歳の目で世界を・・・」信州たかもり熱中 小学校（平成30年4月開校）</p> <p>◇「もういちど7歳の目で世界を・・・」全国展開中の熱中 小学校は、地域を知り、「地域の ために自分ができることは何 か」、「もしかしたらそれは事 業になるのではないか」など、 学びのテーマから事業展開まで を自分たちで考え行動する取組 みを支援します</p>	4	2018 (H30)	◇信州たかもり熱中小学校は4月14日(土)開校。 全2期のコースで実施(1期103名、2期85名)。 町内外から多くの参加者を迎え、上半期では事務 局の発案で荒廃地でのそば作り、下半期からは部 活動や運動会、音楽会など、学びながら楽しむ生 徒の自主的活動も増え、活動の幅が飛躍的に広が った。	5
		2019 (R01)	◇第3期参加者102名(平均年齢56.6歳)、第4 期85名(平均年齢57.4歳)。前年度からの継続 者が約6割強。東京2020オリンピック文化プロ グラムの巨大人形「モッコ」の制作や下市田郵便 局の風景印の制作など、地域を発信するプログラ ムなどを実施。自主財源確保のためのECサイト などにも取りかかったが、初年度はサイトへの協 力事業所の発掘にとどまっている。今後も掲載商 品などが課題。部活動として立ち上がった「葉草 部」は、自主的な活動へと研究を進めている。	4
		2020 (R02)	◇新型コロナウイルスの関係で、令和2年度前期を 休校とした。その間にオンラインなどの設備を整 え、7月から通年で第5期を開催。圏域外の皆さ まのキャンセルもあり、参加者67名。可能な限 り対面授業を行ったが、講師がオンラインになる など、人とのつながりを大切にしていただけに厳 しい結果となった。その中でも、熱中の生徒で大 学生への支援(ブルーベリー・サクランボの郵送) など企画実施し、また、飯田女子高校Eクラスと も「熱中そば畑」を通じて交流を始めるなど、若 い世代とのつながりを持つことができた。	4
			3ヶ年計(15点中)	13

## 自治と協働 みんなで動かす元気な街

### PLAN 2

高森町では自治組織の未加入が大きな問題となっています。これは、地区計画などを通じて地域の自治組織に公共的な事業を積極的にお願いしてきたことにより、役務負担が増加してしまい、「自治組織での活動が大変だ！」という意識が根付いてしまったことも一つの要因ではないでしょうか。自治組織に頼るばかりではなく、人や地域が町政の及ばない部分を支えている公共的な活動を育成し、認め、権限を得ることで理想的な「協働」を形づくらなければいけません。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<b>●項目①：町民活動を支援する1%システム</b> ◇町民が支える公共活動団体の育成及び支援を目的に、町民住民税の1%をボランティアなどの町民活動に助成する制度を作ります。	5	2018 (H30)	◇制度設計及び実施計画を検討。当初は下半期から予算執行を予定したが、町から出ている他の補助金などとも整理する必要があり制度設計に時間を要した。次年度より実施予定。	3
		2019 (R01)	◇高森町町民主体のまちづくり活動支援事業として、「みんなで協働型」に19団体、「まちと共創型」（丸山公園・あったかテラスの管理など）に1団体を採択し実施した。「みんなで協働型」では、地域活動や文化事業など地域の資産を活かす取組みや、お年寄りとの交流など幅広い活動支援に繋がった。	5
		2020 (R02)	◇高森町町民主体のまちづくり活動支援事業は、26団体が申請。地域活動や文化事業など地域の資産を活かす取組みや、お年寄り、子どもたちとの交流など幅広い活動支援に繋がった。しかし、新型コロナウイルスの影響で、1団体ごとの事業規模は申請時より縮小されるケースが多く、活動機会を失った団体もあった。	5
			3ヶ年計（15点中）	13

## 優しい子育てがつづく街

### PLAN 3

丸山公園には、女性活躍子ども子育て支援施設が平成 30 年春にオープンします。これまでの行政視点の事業だけではなく、指定管理者、民間事業者、町民のボランティア団体の皆さんの協力のもと、若い親たちの育児を支え、こころと学びを育む新たなステージを目指します。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<b>●項目①：読書で「こころ」を育む！</b> ◇読書はこころが健康な子どもを育てる第一歩です。新子育て支援センターでは、地域のお年寄りや、中学生、高校生、短大生などによる読み聞かせを充実します。 ◇ふるさと納税の教育支援費を財源として、南北小学校全クラスに学級文庫及び蔵書を整備します。町図書館や町民の皆さんにも呼びかけ定期的にも本の入替えなども行い、小学生一人年 100 冊読むことを目標にします。	4	2018 (H30)	◇南北両小学校では、一年に 100 冊を目標に取組みを行った。北小 85.1 冊（前年度データなし）、南小 169.7 冊/人（+35.2 冊）	4
		2019 (R01)	◇子どもの読書で冊数を目標にした結果、適齢以下の読みやすい本を借りる傾向が強くなってしまった。貸出す本を個々のレベルに併せた指導ができる環境を整え、さらには学校図書館が教科学習などにも広く利用されるよう、3 校と町図書館が連携した「子ども読書支援センター」の設置に向け検討を始めた。	3
		2020 (R02)	◇3 校と町図書館が連携した「子ども読書支援センター」を設置。学齢にあった本の紹介、教材としての本を提案するなど、教職員とも連携し、デジタル化の中でも、活字を読む子どもたちの読書支援を始めた。	5
			3 ヶ年計（15 点中）	12

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<b>●項目②：健康な「体」づくり</b> ◇まずは食べること！食は子どもの体や脳の発達を支えるのに大切なものです。特に朝食習慣に目を向け、保育園、小中学校で朝食習慣 100%を目指します。	4	2018 (H30)	◇夏休みに小学生を対象に「子どもの料理教室」を実施。また、(株)タニタヘルスリンクに依頼し、「あったかてらす」で食育まつりを開催し、タニタ食堂の料理などを紹介した。朝食習慣、中学 95.4%（+1.5）、北小 96.3%（+0.7）、南小 96.9%（+0.0）、保育園 98.0%（△0.6）	5
		2019 (R01)	◇夏休みに小学生を対象に「子どもの料理教室」を実施。南北小学校で保護者向け食育セミナーを実施。(株)タニタヘルスリンクや下伊那農業高校アグリ科の生徒とあったかテラスで食育まつりを実施。朝食習慣、中学 94.3%（△1.1）、北小 95.8%（△0.5）、南小 96.2%（△0.7）、保育園 97.3%（△0.7）	5
		2020 (R02)	◇例年開催していた「食育セミナー」、「子どもの料理教室」は、新型コロナウイルスの影響で未実施。朝食習慣、中学 93.8%（△0.5）、北小 95.1%（△0.7）、南小 97.2%（+1.0）、保育園 97.0%（△0.3）	2
			3 ヶ年計（15 点中）	12

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目③：女性活躍、働き方改革を研究</p> <p>◇製造業が多い当地域では都会のような働き方改革は難しいかもしれませんが、出産や介護などが仕事のハンデにならないよう、地域の事業者の働き方改革と一緒に検討します。</p>	5	2018 (H30)	◇5月5日に女性活躍子ども子育て支援センター「あったかテラス」をオープン。	5
			◇コワーキングで在宅ワークセミナーを開催。（豊丘村と共同事業）	4
			◇町内の事業所における、現在の働き方や女性の働き方に関するアンケート調査を実施し、結果報告と傾向などについて事業所の皆さんと共有した。	4
		2019 (R01)	◇前年度実施したアンケート結果に基づき「働き方改革推進事業計画」を策定し、町内事業所などへの周知を行った。	4
			◇女性の就業相談11回開催、参加者19名。女性の起業相談5回開催、参加者8名、アントレプレナー支援に1名。ミニセミナー5回開催参加者33名。	5
		2020 (R02)	◇働き方改革を進めるよう、町内希望事業者に経営改善のアドバイザーを派遣。町内企業には企業者向けのアンケートを実施し、状況把握を行った。	4
			◇女性の就業・起業相談を17回、相談人数57人。うち9人が就業に至った。ミニセミナーを3回実施し参加者4名。	5
			3ヶ年計（35点中）	31

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目④：保育園の統合、建替え、民営化の研究</p> <p>◇町立吉田保育園とみつば保育園は、建物の老朽化も進み早期の建替えが求められています。地域の皆さんのご意見を伺いながら、今後の人口動態も視野に入れ、統合保育園、民営化への研究を行い、平成30年度中には方向性及び建替え計画を示します。</p>	5	2018 (H30)	◇これまで子ども子育て会議において、老朽化が進む吉田、みつば保育園の改築の必要性までは協議されてきていた。当該年度は、人口推移なども含め、今後の公立保育園の在り方の検討を行い、町内5保育園を将来的には4保育園にすることを決定した。	3
			2019 (R01)	◇私立吉田河原保育園と町立吉田保育園を統合・民営化し、吉田中段に新保育園舎を建設することで地元及び保護者より同意を得ることができた。
		◇みつば保育園民営化についても保護者説明会を行い、同意を得ることができた。		4
		2020 (R02)	◇私立吉田河原保育園と町立吉田保育園の統合保育園は、運営者の社会福祉法人白百合福祉会により用地を取得し造成工事を開始。併せて建物の実施設計を完了。	4
			◇みつば保育園は運営者を公募。審査の結果社会福祉法人萱垣会に決定。建設用地を当該3区へ照会。令和5年度開園を目指す。	4
			3ヶ年計（25点中）	19

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目⑤：グローバル人材の育成</p> <p>◇リニア新時代に向け、南信地域の交流人口の増加には外国人観光客も視野に入れる必要があります。そのためには外国語に触れる機会を増やさなければなりません。子育て支援センター、保育園で外国語に触れる機会を研究します。また、小中学校で充実した英語教育ができるよう、民間事業者と協力して体制を整えます。</p>	4	2018 (H30)	◇子育て支援センター、保育園での外国語に触れるイベントなどは未実施。	3
			◇小学校においては、町費で民間事業者に委託し、3・4年生の英語学習を実施。	4
		2019 (R01)	◇子育て支援センターで熱中小学校講師・神林サリーさんの英語教室を実施。保育園での外国語に触れるイベントなどは未実施。小学校においては、町費で民間事業者に委託し、3・4年生の英語学習を実施。	5
		2020 (R02)	◇新型コロナウイルスの影響で、子育て支援センター・保育園でのイベントはできなかったが、会計年度任用職員としてフランス人を採用、彼女が訪問し、多言語で話かけ、その意味を日本語で解説するなどの取組みが始まった。	4
			3ヶ年計 (20点中)	16

## 安心な老後のために

### PLAN 4

高森町で高齢化率が低下していくのは、これまでの人口増により、近隣市町村と比較して5年から10年遅れると推測されています。独居、二人暮らし老人が増える中、買い物や病院への交通手段など多くの対策が求められます。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目①：福祉バスの見直しと乗合タクシーの検討</p> <p>◇高齢者の免許証の返納などが話題となる中、高森町では町内周遊の福祉バスを実施していますが、今後はバス停までの交通手段などへの課題が予測されます。町内のタクシー会社とも相談し、福祉バスから乗合タクシーなどへの移行を研究します。</p>	5	2018 (H30)	◇他自治体が運営する公共交通との連携、また複雑で分かりづらい福祉バスの解消を目的に、5月8日地域公共交通問題協議会を設立し全4回の会議を実施。町民アンケートを実施。まちづくり懇談会においても重点的に協議を行い、町内全体を右回り、左回りで周回するコミュニティバス及び通勤、通学に駅へ接続するバス路線にすることを決定。新年度10月より実証実験を行う。	3
			◇体が不自由で運転免許を有しない方を対象に、おでかけタクシー券24,000円を7月に公布。該当者104名。3月末現在の利用率は約7割。	4
			◇次年度後期からは、上記コミュニティバス運用により福祉バスほどきめ細やかな路線運用ができないため、77歳以上で運転免許を有しない方を対象に、町内の移動のみ上限1,000円でタクシーを利用できる「寿タクシー事業」を実施する。今後は、寿タクシーをシェアして乗車していただけるよう、シェアタクシーの運用方法の確立を(有)北部タクシーと協議していくことが必要。	3
		2019 (R01)	◇10月から南信州交通協議会とともに、福祉バスから公共バス「柿丸あったかバス」として実証実験を開始。まちづくり懇談会や老連、福祉バス利用者から意見聴取を行い、主要路線から病院、商店などを巡る運行として計画した。直後は福祉バスと比較して利用者が減少したが、徐々に回復。特に利用者のご意見を反映し、路線等の見直しを行い、新年度4月からの有償実証実験に移る。	4
			◇77歳以上で運転免許を有しない方を対象に、町内の移動のみ上限1,000円でタクシーを利用できる「寿タクシー事業」を7月より実施。利用者証交付者400人。シェアタクシーの運用にはタブレット(スマホ)などによる申込み方式の確立と、システム構築が必要。今後も課題を整理し、(有)北部タクシーと協議していく。	4
		2020 (R02)	◇10月から公共バス「柿丸あったかバス」の本格運行を開始。2路線+朝晩、駅までの「おはよう・だだいまバス」。実運行回数2,436回、利用者延4,107人。	5
			◇「寿タクシー事業」は、飯田市内の指定病院をメニューに追加。併せて病院からの帰宅の場合の時間制限を廃止。利用者証交付者472人。	5
3ヶ年計(35点中)			28	

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<b>●項目②：お年寄りの終の住み家を研究</b> ◇老後を安心して過ごすことのできる、高齢者向け住宅などの施設整備を民間事業者と協働して行います。また、それによる現在の居住物件などの再利用について、空き家バンクなどへの掲載も含め、地域の事業者の協力のもと実施します。	5	2018 (H30)	◇医療法人円会により、牛牧地籍に認知高齢者グループホーム（定員9名）の建設が実施。次年度6月より受入れを開始予定。	4
		2019 (R01)	◇医療法人ゆりかごにより、出原地籍に認知症対応型グループホーム、小規模多機能居宅介護施設が整備。次年度6月より受入れを開始予定。	4
		2020 (R02)	◇新規事業なし。	
			3ヶ年計（10点中）	8

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<b>●項目③：介護保険のお世話にならない、健康長寿</b> ◇健康長寿はすべての人のあこがれです。健康寿命を延ばすためにも、若いうちから日ごろの食生活や健康状態を知っておく必要があります。 ◇子どもの食育と併せ、大人も食生活を考えるセミナーや健康運動教室を継続します。 ◇特定健診受診率100%を目指します。歯科検診の補助を継続します。	4	2018 (H30)	◇特定健診受診率 60.2% (△0.7)。2017(H29)年度 60.9%。	4
			◇歯科検診受診率 14.3%。若年層を中心に受診率は低い傾向。	4
		2019 (R01)	◇特定健診受診率 60.9% (+0.7)。	4
			◇歯科検診受診率 22.9% (+8.6)。向上しているが、若年層を中心に受診率は低い傾向。	4
		2020 (R02)	◇特定健診受診率は現段階では推計値 50.2%。	4
			◇歯科検診は新型コロナウイルス感染防止のため中止。対象者は次年度へ。	3
			3ヶ年計（30点中）	23

## リニア・三遠南信自動車道を活かした新たなまちづくり

### PLAN 5

2027年開業を予定しているリニア中央新幹線は、地域に新たな人の交流をもたらし、様々な効果が予想されます。高森町にとって良い効果になるよう、町民の皆さんと斬新な発想で、未来のまちづくりを行いましょ。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目①：リニアガイドウェイ製作工場の整備と周辺の土地利用</p> <p>◇下市田河原に誘致したリニアガイドウェイ製作工場は、2022（令和3）年度から操業を開始する予定です。地権者、耕作者の皆さんのご理解のもと、周辺の工業用地と併せ、この地が未来にわたり有効活用されるよう、リニアガイドウェイ工場跡地利用や企業誘致を進めます。</p>	4	2018 (H30)	◇下市田河原約15haを産業用地に転用。当該年度において3社より申し出があり、農免農道西側4haの分譲を決定した。また、これまでもJR東海と協議を進め、リニアガイドウェイヤードも、さらに拡張希望があり、残り約10haについて調整を開始。	3
			◇新産業用地の整備に向け、関東・中京圏の企業に対し、アンケート調査を実施	3
		2019 (R01)	◇下市田河原農免農道西4haを造成し上記3社に売却。立地企業による建屋の整備も始まった。JR東海との協議も整い、次年度残り約10haの造成に着手。	4
		2020 (R02)	◇地権者との協議が整い、用地取得が完了。農免農道東側の排水路及び調整池の設置、造成工事に着手。農免農道西側の売却地では、(株)丸伝運送、三共鋼業(株)が操業を開始。	4
			次年度、農免農道西側5haの造成に着手。	4
			3ヶ年計（25点中）	18

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目②：美しい河岸段丘を・・・</p> <p>◇河岸段丘は高森町の「宝」です。今以上に美しい風景を織りなすことができるよう、竹林の伐採、針葉樹から広葉樹への樹種の変更など計画的に行います。</p>	4	2018 (H30)	◇役場若手職員で誘客などを考慮しプロジェクトを結成し検討を開始。	3
			◇下平城坂約1.5haで試験的に竹の伐採を計画し実施したが、急斜面で竹が混雑しすぎており、予定事業費+aで0.5ha、1/3の事業しかできないことが判明。そもそも個人所有の土地に対し行政がどの程度まで関わるのか、その後の維持管理をどうするのかなど課題は多い。	3
		2019 (R01)	◇下平城坂約1.5haの内前年度未実施の約1haの竹林の伐採を実施。次年度は当該地で広葉樹の植樹を行い、維持管理の軽減につながるか実証実験を継続。	4
			◇役場若手職員プロジェクトに中学生も参加し、夏には駆竹祭を実施。また、提案のあった竹林のライトアップを実施。	5
			◇段丘戦隊ビリンジャーを結成。段丘林の伐竹を実施した。	5
		2020 (R02)	◇下平城坂1.5haの地持え・植樹を実施。下市田羽根坂0.2haの竹林伐採を実施。	5
◇段丘戦隊ビリンジャーによる段丘整備。年4回実施。	5			
			3ヶ年計（35点中）	30



取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目③：滞在型の農業公園を整備（アグリ交流センター周辺パノラマ農園）</p> <p>◇アグリ交流センター周辺はパノラマ農園としての整備が始まっています。民間事業者の資本や熱中小学校での活動も視野に入れ、四季を通じての滞在型農業パークとしての修景デザインを進めます。</p>	4	2018 (H30)	◇役場若手職員で誘客などを考慮しプロジェクトを結成し検討を開始。	3
			◇町としての構想を地権者、地元提案できるように、民間事業者に修景デザインを委託。地元の皆さんとワークショップなどを実施し、農園そのものを観光できる「農園観光」の方向性をまとめた。今後ゾーニングなどを作成予定。	3
		2019 (R01)	◇役場若手職員プロジェクトと中学生により、アグリ交流センターの利用方法など提案し、パノラマ農園トライアルツアーを実施。パノラマ公園構想のデザインが完成。	4
		2020 (R02)	◇町民主体のまちづくり活動支援事業により「パノラマビレッジ」を結成し活動を開始。	4
			3ヶ年計（20点中）	14

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目④：山吹駒場河原への「川の駅」及び2027年長野国体を見据えたカヌー競技場の誘致</p> <p>◇2027年開催の長野国体に向け、山吹駒場河原周辺でのカヌー競技誘致に取組み、周辺箇所での「川の駅」整備及び防災施設整備を、国・県と連携して取組めます。</p>	4	2018 (H30)	◇役場若手職員で誘客などを考慮しプロジェクトを結成し検討を開始。	3
			◇駒場河原は国有地となるため、占用して利用できるよう天竜川河川事務所とも相談を行い「川まちづくり事業」を申請することを決め、川まちづくり協議会を設立。若手のプロジェクトなどの提案を元に検討を開始。併せて、浜松河川国道事務所とも協力し、天竜川を上下流で新たな資源として活用していく「関係人口」セミナーを開催。	3
			◇長野国体カヌー競技にエントリーし概ね当該地を利用する方向で決定していると聞いているが、発表は未定。その後、当該地でビーチバレーを開催する提案もあり調整中。	3
		2019 (R01)	◇役場若手職員と中学生により、親水公園で「川辺で遊ぼう！」イベントを実施。多くの来場者で賑わった。	5
			◇駒場河原では、川まちづくりマスタープランの策定を行い、国土交通省より川まちづくりの認定を取得。国事業による当該地の埋立て事業も開始された。	4
		◇要望していた長野国体では、カヌー、ビーチバレーの競技場として認定。	4	
		2020 (R02)	◇カヌーコース検討・設計を行い、国事業で、カヌーコースも見据えた天竜川の護岸整備が始まった。南信州広域連合では、当該地に高森消防署を移転することで決定。町で隣接する用地約5,500㎡を取得。	4
			3ヶ年計（35点中）	26

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目⑤：タウンプロモーション</p> <p>◇特産品の市田柿や町の取組みなどを町内外多くの皆さんに知っていただくには、これまでのホームページなどの利用ばかりではなく、SNSでの発信やテレビなどのメディアを利用したCMや番組への売込みなども必要です。ふるさと納税のプロモーション支援費などを有効に活用し、高森町を発信します。</p>	4	2018 (H30)	◇公式 Instagram、ゴミ分別アプリ「さんあーる」を開始。ホームページ内の町長の部屋を新たにし、Facebook ページを利用したことで、町長の活動報告なども充実した。フォロワー数：Facebook・406件、Twitter・1780件、Instagram・437件、YouTube・109件、子育てアプリ・441件。情報発信の方法が多様化している中で、求められている情報などを、どのように掲載するかが課題。	4
			◇信越放送により、高森町の子育て、熱中小学校の番組 30分×2本を放送。	4
		2019 (R01)	◇町のHP内に町の統計データを検索できる、オープンデータサイトを構築。	4
			◇公式 SNS フォロワー数：Facebook・502件、Twitter・2300件、Instagram・1031件、YouTube・162件、LINE・-件。情報発信の方法が多様化している中で、求められている情報プラス楽しい話題などを、どのように掲載するかが課題。	4
			◇広報「たかもり」は、手に取って読みたいと思えるよう企画ページを増やした。	4
		2020 (R02)	◇公式 SNS フォロワー数：Facebook・551件、Twitter・2549件、Instagram・1372件、YouTube・370件、LINE・719件。新型コロナウイルスの影響で、町民へのわかりやすい情報発信が求められ、多様なツールをどのように活かすかが課題。	4
			3ヶ年計 (30点中)	24

## リニア・三遠南信自動車道を活かした新たなまちづくり

### PLAN 5

子育て、教育、観光、産業などの分野において地域課題は周辺市町村と共通の事項です。同じような事業を別々に進めるのではなく、飯伊地域という枠にとらわれず、協力し合う体制を呼びかけます。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
●項目①：豊丘村と共同発注の在宅ワークシステムの広域連携 ◇在宅での仕事を支援し、このシステムの広域化を研究します。	4	2018 (H30)	◇在宅ワークセミナーは2年目を迎え、当該年度からあったかテラスも利用。1年目の卒業生が指導に当たりチーム編成もできてきている。町からもテープ起こしなどの業務を依頼。北部町村に活動を紹介してはいるが、広域化などには到っていない。	4
		2019 (R01)	◇クラウドソーシング高森・豊丘チーム参加者 21名。在宅ワーク入門セミナー参加者 23名。Webライティング検定7名が受験。このような皆さんが活躍できる仕事の発注などを、民間も含め検討していく必要がある。	4
		2020 (R02)	◇クラウドソーシング高森・豊丘チームに、子育て支援情報発信ブログの投稿を依頼。投稿数計 53件。	4
			3ヶ年計 (15点中)	12

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
●項目②：リニア新時代に向け、広域連携による観光公社などの法人化 (DMO) を進めます ◇高森町観光公社のあり方を見直すとともに、広域連携での取組みを研究します。	4	2018 (H30)	◇南信州観光公社は地域 DMO に認定。広域の中で高森町がどのように DMO に関わっていくのが課題。	4
		2019 (R01)	◇広域 DMO と高森町の関係性が曖昧。町の観光公社も、事業が市田灯ろう流し大煙火大会のみであり、タウンプロモーション計画と併せ整理する必要がある。	3
		2020 (R02)	◇新型コロナウイルスの影響で観光需要が落込み、支援策に集中。組織のあり方などの議論の余裕がなかった。	3
			3ヶ年計 (15点中)	10

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目③：リニア長野県駅周辺への国際大会規格のアリーナ施設の誘致</p> <p>◇関係団体から要望のあるアリーナ施設の設置に向け、南信州広域連合での協議を進めます。</p>	4	2018 (H30)	◇南信州広域連合ではコンベンションホール、アリーナ施設の両面で候補地を募集し、高森町でも下市田河原を候補地として挙げた。しかしこうした施設を整備する目的や活用方法、資金面など課題が多く、外部も含め住民団体などからも意見を求め、他地域での計画も少なく、コンベンションホールはエスパード、飯田文化会館の改築計画もあることから、多目的に活用ができるアリーナ施設を整備する方向でまとめた。次年度住民説明を経て、規模や民間事業者の導入も含め検討を重ねる。	3
		2019 (R01)	◇前年度の方向性を基に広域連合で住民説明会を6月22日に実施。参加者39名。アリーナ建設に対する多くの署名が寄せられ始まった事業だが、住民の関心は低い。リニア開通を見据え、スポーツ施設というだけではない広範囲にわたる地域活性化のビジョンを分かりやすく説明し、住民の理解を得つつ、県とも連携し、規模や民間事業者の導入も含め検討を重ねる必要がある。	4
		2020 (R02)	◇新型コロナウイルスの影響で、方向性などの議論は進まなかった。	3
			3ヶ年計 (15点中)	10

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目④：国道153号の4車線化を要望</p> <p>◇現在路線計画が具体化していない、リニア長野県駅北から飯島町伊南バイパスまでの国道153号の拡幅・バイパス化など、関係市町村と連携し、国・県に要望します。</p>	4	2018 (H30)	◇飯島町の伊南バイパスは当該年度より供用開始。伊南バイパス以南からリニア長野県駅間については未計画。飯島町、中川村、松川町、高森町の4町村で、飯島町本郷から高森町下市田間の拡幅改良について勉強会を始めた。次年度には期成同盟会を編成し、国県に要望を行うこととした。	3
		2019 (R01)	◇飯島町、中川村、松川町、高森町の4町村で、飯島町本郷から高森町下市田間の拡幅改良について国道153号伊那バレー・リニア北バイパス改良促進期成同盟会を結成し、正式に国道153号改良促進期成同盟会の傘下の組織として、国県に要望を始めた。今後、現道拡幅区間、バイパス区間など、路線の検討を国県と行い、早期実現を目指す。	3
		2020 (R02)	◇新型コロナウイルス感染症の影響で、国道153号伊那バレー・リニア北バイパス改良促進期成同盟会での要望活動は県のみ。国へは要望書を郵送。伊駒アルプスロード、飯田北改良に続いて事業化がされるよう要望を実施。	3
			3ヶ年計 (15点中)	9

# PLAN 5

## リニア・三遠南信自動車道を活かした新たなまちづくり

町民の皆さんからいただいた貴重な税金を、どのように町民の皆さんに還元しているか、一緒に考える機会をつくり、「見える行財政経営」に努めます。

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目①：予算査定を公開します</p> <p>◇町の事業は次年度の経営方針に基づき予算編成時に作成されます。予算の概算要求を分かりやすくホームページで公開するとともに、予算査定を公開し、町民の皆さんの傍聴を可能にします。</p>	5	2018 (H30)	◇予算査定において4事業を公開。①農産物加工施設、②パノラマ農園、③段丘林の整備、④子どものインフルエンザ予防接種	5
		2019 (R01)	◇予算査定において9事業を公開。①コミュニティ組織支援(1%)、②地元施工用排水路事業負担金、③天竜川かわまちづくり、④CATVインターネット、⑤学校と地域の関わり合い、⑥環境学習会、⑦高森町の動植物誌の発行、⑧パノラマ農園、⑨私有林(段丘林)の整備	5
		2020 (R02)	◇予算査定において5事業を公開。①町道・用排水路等の地元負担金、②ICT教育、③子どものインフルエンザ予防接種、④カーボンゼロへの取組み、⑤コロナ禍での地域経済対策。第7次まちづくりプランの施策の外部評価会議を実施。	5
			3ヶ年計(15点中)	15

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目②：ICT環境を整備し、行政効率の向上させます</p> <p>◇公共料金のコンビニ収納など、近隣市町村との連携により早期に実現します。</p> <p>◇文書の電子化、事務所の改修で事務効率の向上を図り、町民の皆さんとお話ができる時間や環境を整えます。</p>	4	2018 (H30)	◇行政効率を上げることで町民の皆さんと向かい合う時間を増やすことを目的に、まずは5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)に取組むこととし、庁内に副町長をリーダーとする5S委員会を設置し、当該年度中は整理、整頓の2Sを重点的に実施。併せて、公共料金コンビニ収納、諸証明のコンビニ交付などの検討を開始。また、文書分類表の点検などによる文書管理システムの導入なども検討開始。	3
		2019 (R01)	◇若手職員の研修も兼ねて、働きやすい職場環境づくりの研究を開始。令和2年2月より諸証明のコンビニ公布を、令和2年4月以降発行の公共料金についてコンビニ収納を開始。文書分類システムを導入し、令和元年度以降の文書保管を電子化。電子決済システム導入に向けた検討を開始。	3
		2020 (R02)	◇役場庁舎の事務所拡張などの改修計画を策定。新型コロナウイルスの影響もありオンライン会議システム、テレワーク用端末の整備を順次開始。令和3年度から電子決済の運用も開始。保育園職員の週日案などの作成を含む、保育園管理システムを導入。保護者も園児の出欠席などをスマホで登録できるようになった。	4
			3ヶ年計(15点中)	10

取組みの項目	項目評価	年度	年度ごとの実施内容及び課題	取組み評価
<p>●項目③：皆さんのお約束をチェックします</p> <p>◇町長の公約や進捗状況を自己評価し、ホームページで公開します。</p> <p>◇町民の皆さんとの直接対話を増やし、公約の進捗状況や町の課題について意交換を行い、次年度以降の事業や予算編成の参考にするとともに、公約のチェック、新たなアクションを検討します。（PDCAを廻します。）</p>	4	2018 (H30)	◇予算の公開査定、まちづくり懇談会の方法の見直し、各種事業の説明会への出席など積極的に町民の皆さんと対話を実施。公約の自己評価シートを作成。	4
		2019 (R01)	◇予算の公開査定は職員への負担は大きいですが、町民の関係の皆さまから直接ご意見をお聞きし判断することができる。	4
			◇第7次まちづくりプランの策定に向け、まちづくり懇談会をワークショップ形式で実施。中高大生、消防団、わかもの特命、子育て中の保護者などとも懇談を増やした。	4
		2020 (R02)	◇新型コロナ対策で町民の皆さんとの懇談会や行事は極端に減ったが、県外大学生などとはオンラインミーティングなどを実施。コロナ対策は関係者の意見を聞いて進めるよう努めた。	4
			3ヶ年計 (20点中)	16

# 高森町の皆さんはどう考えますか？

Q 壬生町長のマニフェストはどこかで入手できて、その進捗状況を確認することができますか？

A 高森町のホームページで確認できます。

◇マニフェストを達成すればそれで良いですか？

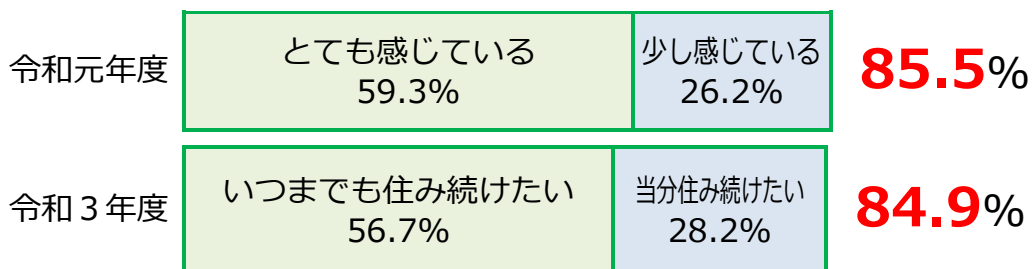
◇4年前と比べて高森町は良くなりましたか？(どの辺が良くなったのか？)

【町民意識調査結果より】

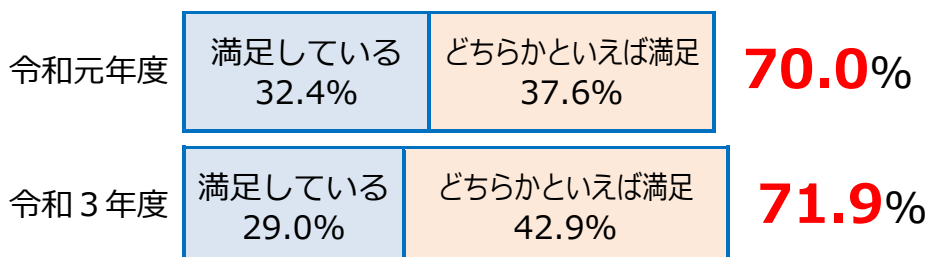
Q1：あなたは町に愛着を感じていますか？



Q2：あなたはこれからも高森町に住み続けたいと思いますか？



Q3：あなたは役場職員の窓口や現場対応に満足していますか？



## 【高森町の総合計画（概要）】

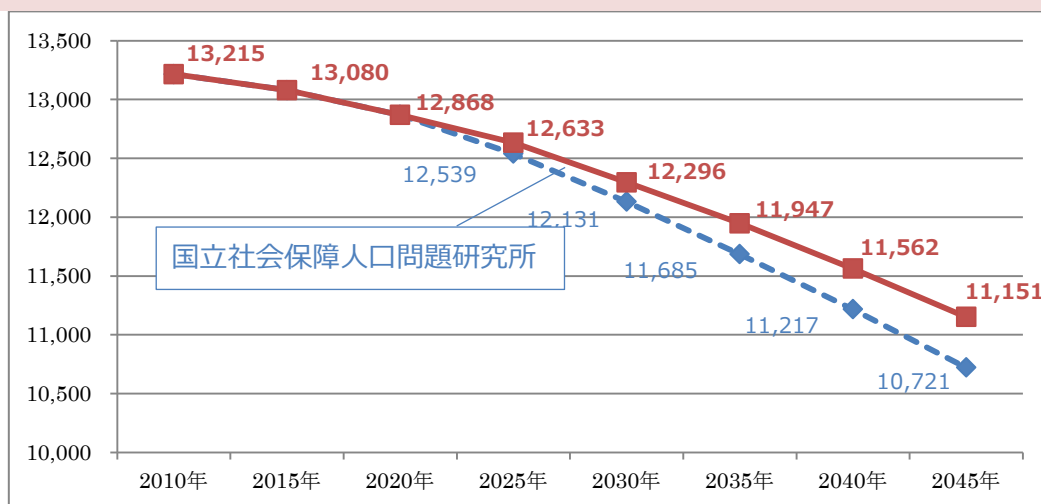


子ども・大人・シニアが多様性に富み、成長するまちで、自分自身がこの地域で  
なりたい姿を見つけ、実現することを目指します。

「あなた」は個人を指すものばかりではなく、地域や町も含まれています。  
町では、それぞれが将来のあるべき姿を想像し、そこに住む皆さんが、自己実現  
とともに地域や町の将来を担っていただくまちづくりを目指しています

### 2045（令和26）年に 11,200人 を目指す。

高森町が将来にわたって持続可能な地域であるためには、  
一定の人口が必要です。



#### 子どもの笑顔 が輝くまち

- 自己実現できる
- 将来の夢が描ける
- 学校が楽しい

#### 大人の充実が 満ちるまち

- 自己実現できる
- 人とのつながり
- 働く場所がある

#### シニアが益々 充実するまち

- 自己実現できる
- 社会とのつながり
- 自分のことが自分でできる

#### 多様性のある まち

- 関係人口が増える
- 副業・兼業
- 障がい者が社会とつながる

#### 成長する まち

- 住みやすい社会インフラ
- 安定した財政基盤
- 防災・減災

### 18の施策（具体的な取り組みの分野）



# 令和2年度 まちづくりプランまとめ

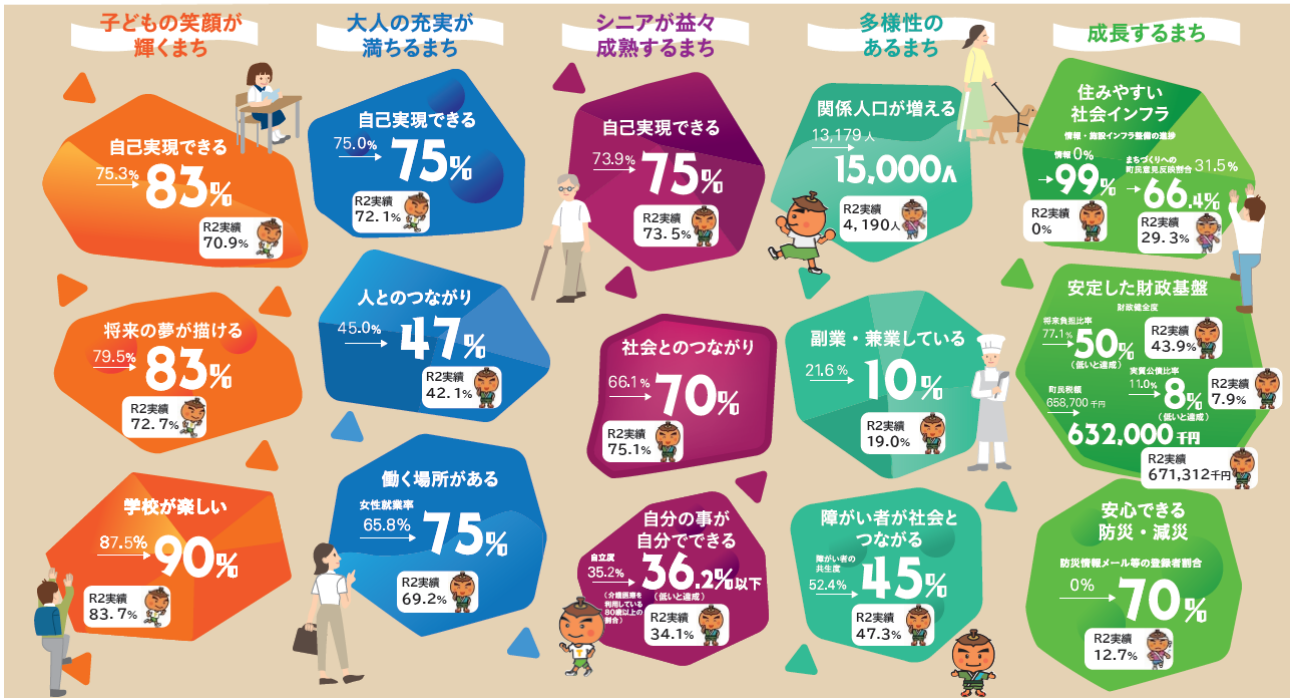
人口目標  
13,080人  
→ 11,200人  
(2045年)  
R2実績 12,814人

まちづくりプランの初年度である、令和2年度の実績をまとめました。  
将来像の達成度をお知らせします。

町民の「なりたい『あなた』」に会えるまち  
日本のしあわせタウン高森

達成度 **28%**

※令和29年度目標値に対する、全19項目の令和2年度現在の達成割合。



マニフェストは4年間の約束ですが、あくまでも町政の一部に過ぎません。しかし、生活している人は4年で区切られるわけではなく、マニフェストに書かれている事以外にも、生活するうえで関連・関心はたくさんあります。すなわち、町政は総合的におこなわれるものです。首長は、総合計画の中にマニフェストを落とし込み、総合的に町のビジョン達成に尽くしていくものです。引き続き頑張ってください！



マニフェストを読んで選挙に行こう。